

工芸 愛海詩

えみし

墨・筆 伝統と品質を誇る

一心堂展示会

＝ 奈良県の伝統工芸産業 ＝

12月21日～1月16日

特別号 No.27

工芸・愛海詩の会
会報

平成22年12月15日発行

編集発行人/工芸ギャラリー
佐藤 睦子

〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112

WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

手の仕事

ドキドキする時、胸に手をあてる。折る時は右手と左手を合わせる。頭をなでる手、抱きしめる手、涙をぬぐう手、仕事をする手、そして何かを創作する手、手は様々な表情、働きをもって私達の心に語りかける。

手作りの作品が私達の心をノックし、ぬくもりや豊かな時を与えてくれる。その気品を愛でたい。私はこの仕事をしながら、いろいろな職人と出会い、その手の動きにいつも魅了される。顔より先について、手を見つめてしまつことさえある。すばらしい職人の手を見て、その手が切なく、美しく、ありがたく思う。そしてまた、無意識に他の人の手も見つめてしまつ時がある。「よく働いている手だな」「器用そうな手」「頭のよさそうな手だ」「時として手は、言葉より雄弁にその人を語る。喜び、悲しみ、働き、その営みを手は写す。父や母のように私達も、この手を信じ、よき働きをさせ、よき事を語る手、よき創造をする手、魅力ある手を持ちたいものだ。拜金主義、効率最優先、現代がかかえる病理と考える。そのことにより、荒寥たるところの果てが見える。良心が揺め取られたら、文化は育たない。手仕事もしかり、効率が悪くとも、日本人の賢く、器用な、知恵を語るかのような手仕事を大切に、もう少し深く考えたい。こつこつでも、どんなにでも、すべすべでも、なんとも味のある手をもつ人にこれからも出合いたい。それと共に手仕事の大切さ、手作りがもつ愛しさを伝え続けて行きたいと思う。

平成二十二年は良き出会いが沢山あった。行く年、来る年のあわいで、みなさんが胸に思った真義なことが叶えられますよう、そして、平成二十三年は、みなさん、作り手にとってすばらしい年でありますよう、心より祈念致します。

(佐藤 睦子)



一心堂の玄関・店内

一心堂は創業80年、奈良県にはなくてはならない主に墨、筆、書道用品を取扱う専門店だ。その品揃えは多岐にわたり、初心者から、その道の第一人者まで幅広く支持されている。一人一人の個性を活かし、対応し、その誠実な仕事振りは地道な積み重ねがあってこそと言える。すばらしい墨や筆を皆さんに届けたい一心で、一つの道をまっすぐに働く。正に店名「一心堂」の名の通りのお店だ。



所狭しと並べられている一心堂店内にある筆、どのような字でも対応できるほどの品揃えだ。要望に添うような筆がきっと見つかるはずである。今回の展示会では50点ほど出品する。



一心堂店内にずらっと並ぶ墨、色や香り、形や濃さも1つ1つ微妙に違う。自分のお好みと出合えたらうれしさも一入だ。心静かに墨を摺る。そんな至福の時を忙中に閉をみつめて過ごしたい。



墨 與茶 (52年造) 布箱入り
箱の大きさ たて14cm×よこ10.5cm
純菜種油煙、摺った時のかぐわしい香りを想像すると楽しい。両面にほどこされた彫りのすばらしさは芸術的だ。いろいろな黒色のトーンが使い分けられ、その色目は美しい。



硯、端溪、緑石、布箱入り
硯の大きさ たて24cm×よこ14cm(巾の広い場所)
見事な緑石で存在感がある。形といい、色合いといい、なかなか手にはまらない。自分だけの逸品として手元において使ってみよう。



伝統工芸士、田川欽造氏の工房、半世紀以上、筆作りの職人としてその道を極めている。上の写真は穂首の芯を作っている。下は穂首の根本を麻糸でしめている。長い年月をかけて培ってきた技が光る。数少なくすばらしい筆を作る職人の一人である。



上の写真は松煙を蓋のようなものにうけている。つまり煤を長い時間かけて、ためて、墨の原料にする。
下の写真は松煙と合わせる^{にかわ}膠、上、中、下と墨の特質によって分けられる。



煤まみれになりながらも一心不乱に墨を作る職人、墨の形を作っている。あの雅な墨がこういった過程を経て作られている。わずかな墨も無駄にはできないと思う。手際よく、無駄のない動きが美しい。

奈良県には由緒ある寺社仏閣が多いこともあり、墨や筆を作るすばらしい職人がいる。奈良県の墨や筆のすばらしさは日本有数である。一年前、「一心堂」に縁のある職人を訪ね、写した左の写真、手早く一心不乱に作品を作るその手さばき、集中力に感動し、胸を打たれた。そういった職人が作った墨や筆は非常に使いごこち良く、豊かな気持ちにさせてくれる。かぐわしい香りの墨、素敵な文字や絵が書ける筆、硯、和紙、文鎮、筆筒、墨床など約70点を展示する。ギャラリー愛海詩で「一心堂」初めての展示会である。是非ご高覧下さい。

★ お知らせ

工芸ギャラリー愛海詩のオープン時間帯は、12月21日(火)より、午前11時から午後6時までとさせていただきます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

〓 挨拶 〓
〓 作品展によせて 〓

一心堂・小島 正道

奈良の三条通りで筆墨店を営んで約80年になります。

初代が採煙(墨の原料の油煙を採る)を業としたことから筆墨の製造販売に発展し、各地の書に親しむ方々に御用命を頂いております。

筆はその型状(太み・穂の長さ)硬軟の具合によって千差万別です。

馬毛、鹿毛、羊毛、イタチ毛、リス毛、猫毛、各種の鳥毛等、多種の原料により、又筆の大、小、穂長の長短により、数百種類有ります。

それらの中からお客様に要望に合う筆を見つけてお手伝いをさせていただきますが、長いお付き合いの中で、直ぐにご希望の筆をお渡しできる時もあるれば、お客様のお好みも分かって頂くまでに、何回か異なる筆をお使い頂く中で良い筆に出会って頂ける時もあります。

墨は硯の上で磨りおろされて墨汁となり、紙に滲み、浸透する事でその真価を表します。胡麻油、菜種油から採る油煙、動物油から採る煤とニカワを練り混ぜ木型に入れてその風姿を得ます。

製造してから年数が経過すると、のび、滲み方が変わり、良くなつてきますので、中には数十年ねかせる品も有ります。

筆・墨・硯・紙がお使いになる人と良い出合ができるようにお手伝いをさせていただきます。役割を思っております。

今度お与え頂きました機会に、お喜び頂ける品をお届けできることができれば幸に存じます。

〓 挨拶 〓